

バイオマスタウン構想の取り組み

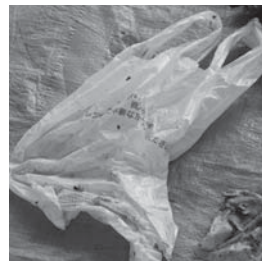
「生ごみ分別モデル収集事業」生ごみの分別をお願いします

生ごみの収集量は、衡中東、ときわ台地区、定住促進住宅の皆さんのご協力により増加していますが、収集容器の中に「たい肥」としてリサイクルできないビニールやプラスチック、金属類等が多く混入しています。分別されていないものは、業者により収集されず村で分別作業を行っています。下記を参考に、分別にご協力をお願いします。

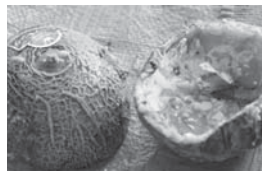
収集できるもの

ごはん・パン・麺類・肉・野菜（芯、皮を除く）・果物（皮、種を除く）

収集することができないもの



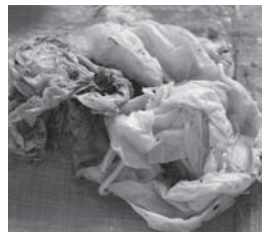
プラスチック・ビニール



果物の皮



たばこの吸殻



紙・布類



三角コーナーのネット



麦茶等のティーバッグ



玉ねぎやたけのこの皮



卵の殻

※たい肥としてリサイクルするために収集できるものは、皮や殻等を除いた食べられる部分です。とうもろこしや玉ねぎ、たけのこの皮、卵や甲殻類の殻、貝殻などは、たい肥化することができないため収集できません。可燃ごみとして排出してください。

生ごみからリサイクルされた「たい肥」を、花いっぱい運動で村内の花壇や役場庁舎のプランター等に活用しました。ご協力ありがとうございました。



◆問い合わせ先
企画財政課
☎341-8510



社会を明るくする運動強化月間 ～立ち直りを支えるのはあなたのまなざしです～



更生ペンギンのホゴちゃんとサラちゃん

今年で第68回を迎える社会を明るくする運動が、『犯罪や非行を防止し、立ち直りを考える地域のチカラ』をテーマに、7月の強化月間に全国一斉に展開されます。

この運動は、すべての国民が犯罪や非行の防止、罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない明るい社会を築くため展開されます。罪を犯した人や非行のある少年を励まし、その立ち直りを助け、すべての人が幸せに暮らせる安心・安全な社会を実現するために、この運動に対する多くの方々の賛同が重要です。

立ち直ろうとする人を受け入れ、支える方法は様々です。何ができるかを一緒に考え、できることから始めてみませんか。

村消防団消防演習実施

6月10日（日）、小雨が降る肌寒い中、小学校校庭で齋藤団長以下団員120名が集結し、大衡村消防団消防演習を実施しました。

演習では観閲、機械器具点検に続き部隊訓練を行い、指揮者の三塚第6分団長の号令に従い、隊列を乱すことなく正確な動きを披露しました。また、ポンプ操法では、きびきびとした動きの中、日頃鍛錬している技量を披露し、観客から大きな拍手が送られました。

これからも万々に備えた消防団の活躍が期待されます。

なお、午後に予定していました黒川地区4消防団代表による支部消防操法大会は、残念ながら雨のため中止となりました。



交通死亡事故ゼロ2年間達成

本村では、平成28年6月11日に衡中地区で交通死亡事故が発生して以降、死亡事故が発生しておらず、6月11日で730日（2年間）を達成しました。

6月12日（火）、宮城県震災復興・企画部総合交通対策課の佐藤副参事が役場を訪れ、県知事名の褒状を萩原村長に伝達されました。

村長は、「村民はもとより関係機関・団体等の協力をいただきながら、引き続き交通死亡事故ゼロを目指し、交通安全対策に取り組んでいきます。」と抱負を述べました。



「災害時連絡方法のてびき」の贈呈



6月18日（月）、公益財団法人日本公衆電話会宮城支部（藤原茂郎支部長）より、村へ「災害時連絡方法のてびき」（大規模災害時の安否確認）が贈呈されました。

このてびきには、災害用伝言ダイヤル（171）での安否確認サービスや、大規模災害後の公衆電話の利用方法等が分かりやすく掲載されています。

村では、避難方法や連絡方法を定める一助として活用するために、各地区の自主防災組織に配布する予定です。